

文科省の阿蘇企画官が資料 4-1(日 ESA 会合)を 3 分程で説明した後、3 分程の短い質疑応答があった。(理科離れと云う共通認識の下、一般市民の関心喚起のためのブレーストーミングが ESA から提案され、具体的に検討することにした。また、ナノテクや再突入など宇宙技術に関する部会の提案があり、関連省庁との相談の為に持ち帰ることにした。)(教育・広報に興味を示す青江委員が委員長に促され、「ブレーストーミングをやる事は結構であるが、長年苦慮して来た事でもあり、どうしたら良いんでしょうねと、悔やみ事を話した。)

青江:「宇宙教育を含めた広報活動の具体的な取り組みについてのブレーストーミングをやる。」ってのは結構な事だと思うんですが、多分日本も今まで科学、なにか宇宙開発についての国民の関心、此れをどうホントに呼び起こして行ったら良いのかって云うのは、色々な試みをして中々こー、実が上がらないと言いましょかね、そう云う所で期待したいと思うんですけども、ホントに何がアウトプットとして出て来るのかなーと云うのを、どうも良く分らん処が有りましてね。

其れに関連して思うんですけども、此の前のどっかの新聞に科学技術の関心についての調査をしたら、宇宙開発が際立って低かったと。云う新聞記事が載ったですよ。それで、政策研の調査結果なんですけど。それで一寸調べてみたら、経済、財政、景気だとか、外交だとか、そう云うものとの並びで宇宙開発がポンと入って居って、そ

れで関心が低いのも或る意味当たり前かなと云うのも有りましてね、どうも宇宙開発が際立って国民の関心が低いって云う風なキャリーの仕方をされると云うのも、些(いささ)かどう云うもんだろうかナァと思ひまして、何かこう、場合によっては調査方法そのものがおかしいのかも知れないですけどですね。一寸まあ、余談ですけどもね。何れにしる、際立って低いと云う風に言われるのは、何れにしる良くないナァと。云うのが気になった処なんですけどネ。

どうやったら国民の関心、宇宙開発、まあ大きく見たら科学技術全体にとっての関心を呼び起こすことが出来るのかネエ。此れは難しい事ですネエ。と云う事以上には無いんですけどネ。

松尾:此の事色々な場面で指摘されましてですね、PR が足りないとか。其れなりに努力はして居りまして、重要だって事はみんな解ってる訳ですので、具体の方策としてどう云うものが有効かと云う議論をしてくより仕方が無い時期だと思ひますが、其れが中々難しい処が有ると云う事で御座います。まあ、今後とも努力はして行かなきゃいけないと云う風に思ひますけど。ええ、何かありますか、宜しゅう御座いますか。はい。じゃあ、この件此れで終わらして頂きます。